# 藤原宮跡・藤原京跡の発掘調査

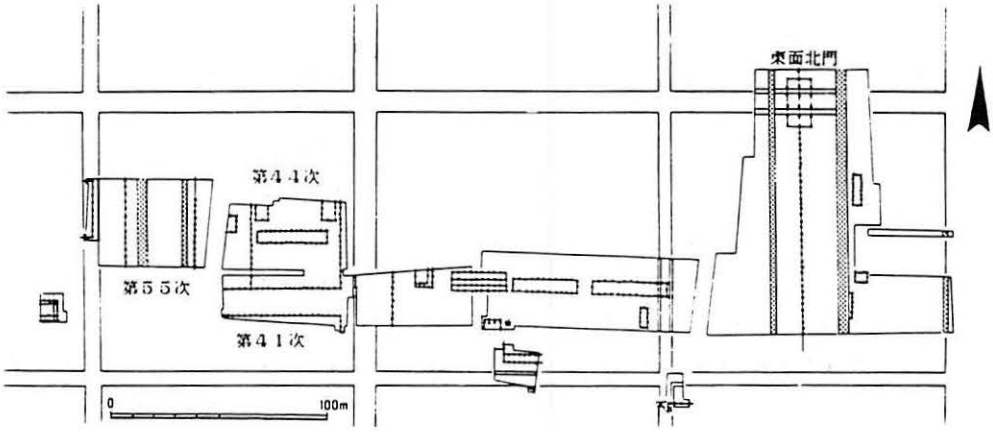
**飛鳥藤原宮跡発掘調査部**

飛鳥・藤原宮跡発掘調査部では，藤原宮跡・藤原京跡において1987年度に別表（18頁）のような発掘調査を行った。以下に主な調査の概要を報告することにする。

1．藤原宮跡の調査

**東方官衙・内裏東外郭の調査（第55次）**　東方官衙地区については，1978年の第24次調査以来継続的に調査を続けその様相が次第に明らかになりつつある。第55次調査は，一連の東方官衙に関する調査のうちでは最後の調査に当り，官衙地区と内裏外郭地区とに跨る位置で実施した。なお内裏東外郭地区については本調査地の北で奈良県教育委員会による調査，また南では第4次調査が行われている。

藤原宮期の遺構　掘立柱建物2棟，掘立柱塀1条，溝2条がある。SA865は内裏東外郭の東を限る南北塀で，14間分を確認した。柱は全て西方向へ抜き取られている。SA865の東にあるSD105は宮内基幹排水路（東大溝）で，幅4m，深さ0.8mある。堆積土は3層に大別でき，中層と下層から木炭・土器・瓦等が出土した。また下層からは木簡が出土した。SA865の西，内裏東外郭の内部にはSB6052がある。桁行8間・梁行2間以上の南北棟である。SA865の東32mには南北塀SA6051がある。SA6051は第41・44次調査で検出した，南北二つの官衙区画のうちの北側の官衙の西を限る塀と推定され，やはり第41・44次調査で検出した，この官衙の東を限る塀との間は66m（大尺750尺の1/4）になる。この官衙の内部にはSB3897がある。SB3897はSA6051と西側柱を共有する東西棟建物で，東側から2間分については既に第44次調査で確認しており，今回の調査成果と併せると桁行7間・梁行3間の規模に復原できる。SA6051の西には南北溝SD850がある。幅1.5m，深さ0.6mで，堆積土は2層に大別できる。SD850は官衙区画に沿ってあることからSA6051とともに東方官衙地区を画する施設の一つであるとみられる。なお

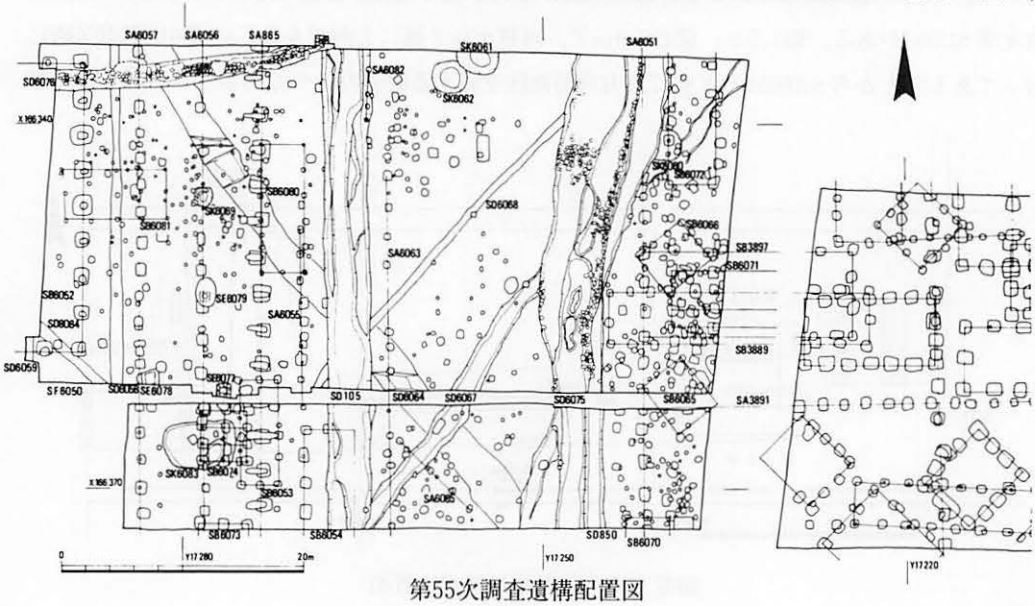



藤原宮東方官衙地域調査位置図

SD850とSD105との間約18mには藤原宮期の顕著な遺構がないことから，この間が南北方向の宮内道路であったと考えられる。

藤原宮期以前の遺構　弥生時代・古墳時代及び7世紀代の遺構がある。弥生時代の遺構には，斜行する大溝SD6064がある。幅は最大3.5m，深さ0.6mで，堆積土は3層に分かれ，中層からは弥生時代後期の土器が多量に出土した。古墳時代の遺構には，掘立柱建物2棟，溝2条，土坑があり，建物・溝はいずれも方眼方向に対しほぼ45°振れている。SB6065は桁行4間・梁行3間と推定され，またSB6066は桁行3間・梁行3間である。SD6067は幅1.2～2.0m，深さ0.5mで，堆積土は3層あり，最下層から6世紀代の土器が多量に出土した。SD6068は幅0.5m，深さ0.15mで，堆積土は1層で，南端は削平されている。SK6069は不整形の土坑で，6世紀代の土器が出土した。7世紀代の遺構には掘立柱建物3棟・掘立柱塀3条・道路1条・溝2条・土坑がある。SB3889は第44次調査区で東端を検出しており，桁行11間・梁行2間の東西棟建物に復原できる。SB6053は桁行4間・梁行2間の南北棟建物。SB6054は桁行4間以上・梁行2間で，東側柱筋はSD105によって破壊されている。SA3891は第44次調査区から西に延びる東西塀で，4間分を確認したが，SD6075以西では検出していないことから，SD6075・SD850付近で北に曲がるものと推定される。SA6063は南北塀であるが，削平のために一部欠けている柱穴があり，また北端が不明である。SA6057は南北塀で，18間分を確認した。SF6050は条坊計画道路の東一坊坊間路に相当し，東西両側溝を伴う。東側溝SD6058は幅1.0m，深さ0.4mで，西側溝SD6059は幅0.85m，深さ0.2m。両側溝の心心距離は7.2mである。そのほか7世紀代の土坑が数基ある。

藤原宮期以後の遺構　奈良時代と平安時代の遺構がある。奈良時代に属すると考えられる遺構には，掘立柱建物2棟と掘立柱塀1条がある。SB6071は身舎の桁行が3間以上・梁行2間で，




第55次調査遺構配置図

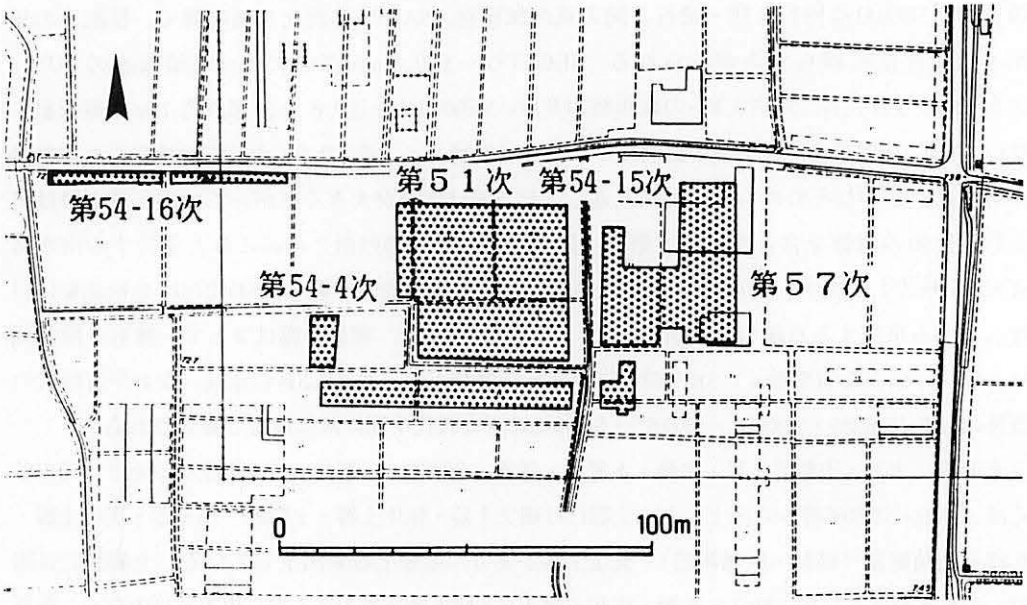
南に庇がつく東西棟建物。SB6070は北妻2間を検出したにとどまったが，東側柱筋がSB6071の西妻に揃う。SA6056は南北塀で，柱間寸法にばらつきがあり，また柱掘形の規模も一様ではない。平安時代の遺構には掘立柱建物5棟・掘立柱塀1条・溝2条・井戸3基・土坑がある。SB6072は桁行5間以上・梁行2間の南北棟建物。SB6074は桁行3間・梁行2間の総柱の南北棟建物。SB6073は南北棟建物で，北妻2間のみを検出した。SB6080は桁行5間・梁行2間の南北棟建物。SB6081は桁行4間・梁行2間の東西棟建物。SA6055は南北9間の塀で，柱掘形の規模・柱間寸法にばらつきがみられる。SE6077は一辺0.5m，深さ0.55mの縦板組の井戸。SE6078は一辺0.7m，深さ0.8mの縦板組の井戸。SE6079は一辺0.8 m，深さ約1mの縦板組の井戸。SD6075は奈良時代中頃の開削にかかり，当初幅2m，深さ0.5mの玉石で護岸した南北溝であった。しかしそののち氾濫を繰り返し，北方では溝幅が大きく広がっている。最上層は平安時代中頃の遺物を含んでいる。第4次調査区ではSD850の西2mにこれと並行する南北溝SD852を検出しており，SD6075はSD852の延長部である可能性もある。SD6076はやや北東に斜行しながら東流する石組の東西溝で，幅1.5m，深さ0.5m，掘形の幅は2mで，側石一段が残り，底には偏平な石を敷く。SK6083は東西6m，南北4m，深さ0.5mの土坑。なお平安時代の遺構のうちSB6080・SB6081・SE6079・SK6083は平安時代中期以降に降ると推定される。

出土遺物　土器・土製品・瓦・木簡・木製品・銭貨・金属器・石製品・ガラス玉等があり，その多くはSD105・SD6065等から出土した。土器には縄文土器・弥生土器・土師器・須恵器・黒色土器・瓦器・施釉陶器（緑釉・灰釉陶器）・製塩土器があり，墨書土器も出土している。土製品には陶硯・土馬等がある。瓦は軒瓦・丸瓦・平瓦・熨斗瓦・隅木蓋瓦等があるが，出土量は少なく，藤原宮式が大部分である。銭貨には「隆平永寶」「万年通寶」，金属製品には帯金具・刀子・鈍等がある。また石製品には砥石・紡錘車・管玉・有孔円盤・石鏃・剝片石器等がある。また木製品としては斎串が出土している。木簡はSD105から35点が出土したが，ほとんどが断片である。

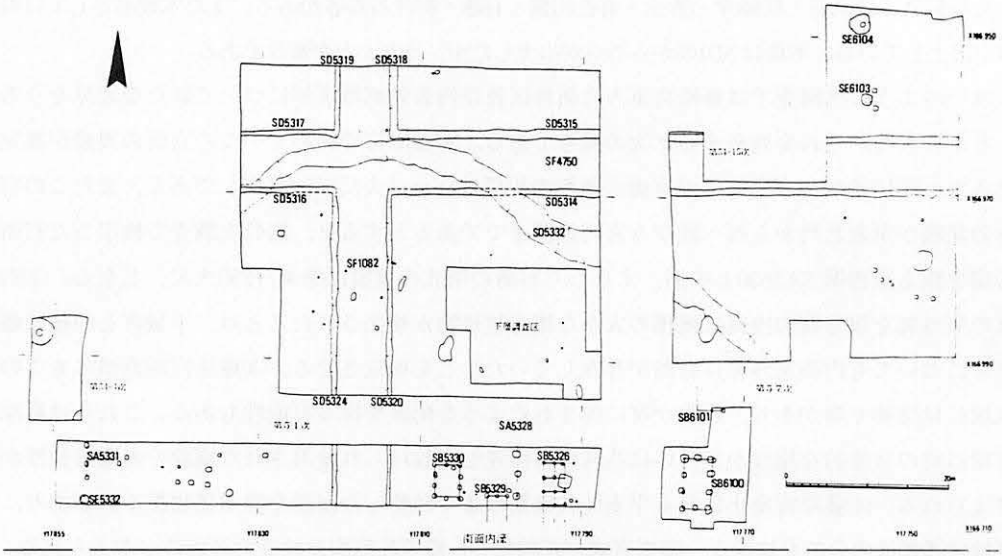
以上のように当調査では藤原宮東方官衙地区及び内裏外郭地区等について新たな知見をうることができた。それを列挙すると次の通りである。(1)藤原宮で初めて一つの官衙の規模が推定できた。既に述べたようにこの官衙の東西の規模は66m（大尺750の1/4）であり，またこの官衙の北限が東面北門から西へ延びる宮内道路までであるとすると，第41次調査で検出した官衙の南を限る東西塀SA3630との間，すなわち官衙の南北の規模は88m（250大尺）となる。(2)内裏の東外郭を限る塀の内側に規模の大きな掘立柱建物が検出されたことは，平城宮と同様に藤原宮においても内裏東外郭に官衙が存在していたことを推定させる。(3)藤原宮期直前にもこの地域には建物や塀があり，建物が塀に囲まれたような配置を採る可能性もある。これらは藤原宮期以前の官衙的な施設かあるいは造営的に関連して設けられ使用された施設である可能性が考えられる。(4)藤原宮廃止以後も平安時代前期頃までは整った配置を採る建物群や溝があり，平城宮遷都後の公的な施設か，藤原宮域が荘園化した際の荘園関連施設の可能性が考えられる。

**西南辺地域の調査（第57次，第54―4・15・16次）**　調査はいずれも宅地造成とそれに関連する

道路工事等に伴う事前調査である。調査地は橿原市四分町で，藤原宮の西南辺に当たり，この地域では昨年度第51次調査として第57次調査区に西隣する位置で調査を実施し，藤原宮に先行する条坊遺構として西二坊坊間路と六条条間路の交差点を検出したが，当該地域における従来の調査と同様に藤原宮期の遺構は稀薄で，しかも小規模な掘立柱建物が検出されたに過ぎなかった。なお調査地は弥生時代の集落遺跡である四分遺跡にも当たっている。




藤原宮西南辺地域調査位置図




藤原宮西南辺地域遺構配置図

第57・54－15次調査　第57次調査は昨年度調査した第51次調査区の東側で実施し，また第54-15次調査は第57次調査区の西北隅に接続した位置で行った。両次の調査で検出した遺構は掘立柱建物２棟，井戸２基，道路１条，自然流路等である。なお第57次調査区の西南部では下層遺構の調査を行い弥生時代の自然河川・斜行溝・小穴群などを確認した。SE6103・6104の２基の井戸はいずれも調査区の東北部にあり，素掘りの井戸で，堆積土からは７世紀後半から藤原宮期の土器が出土している。SF4750は条坊計画道路の六条条間路で，第51次調査で確認したものの東延長部に当たり，路面幅は約６ｍ。SD5314・5315はその南北両側溝で，幅は約0.8～１ｍ，深さは0.3～0.4ｍである。SD5332は古墳時代の自然流路で，第51次調査で確認しているものに連続する。

第54－4次調査　第51次調査区の西側に調査区を設けて実施した。調査区の西北隅と東南隅で弥生時代後期の土坑２基を検出したに過ぎず，藤原宮期の遺構は検出できなかった。

第54－16次調査　第54－4次調査区の西北方で実施した調査で，西面大垣・内濠・外濠を確認した。内濠については東西両肩を確認し，幅２ｍ，深さ0.75ｍであったのに対し，外濠についてはその東肩を確認したに留まり，また西面大垣も柱穴１個のみを検出しただけである。

以上藤原宮西南辺地域で今年度に実施した４次にわたる調査や従来この地域の周辺で行われた調査（第10・26・34・51次等）を総合すると，宮西面南門から南の宮西南辺にはまとまった建物群はなく，独立した官衙を構成してはいないことが明かとなってきた。

**西方官衙の調査（第54-9次）**　橿原市立鴨公幼稚園への進入道路建設に伴う事前調査である。調査地は宮西方官衙地区の一郭に当る。調査区の北側で行われた第５～９次調査では長大な南北棟掘立柱建物を中心とした建物群等からなる官衙の存在が確認され，平城宮馬寮との類似性が指摘されている。調査の結果，直接西方官衙に結び付く遺構は確認できず，藤原宮期の遺構は土坑１基を検出するに留まったが，藤原宮直前の条坊計画道路である西二坊坊間路や７世紀後半の掘立柱建物，古墳時代の自然流路等を検出した。西二坊条間路は路面幅約5.4ｍで，幅1.3ｍ，深さ1.1ｍの東側溝と幅0.7ｍ，深さ0.25ｍの西側溝を伴う。

２．藤原京の調査

**左京一条二坊の調査（第56次）**　レジャー施設建設に伴う事前調査である。調査地は橿原市法華寺町で，左京一条二坊のほぼ中央に当たる。調査の結果，藤原宮期以前の自然流路・土坑，藤原宮期の東二坊坊間路・一条条間路と掘立柱塀，藤原宮期以降の小溝・土坑等が検出された。検出した遺構のうち藤原宮期に属するものについてみると，SF6030とSF6035はともに路面幅5.5ｍで，両側に素掘りの側溝を伴う。東二坊と方間路の東側溝は幅1.0～1.5ｍ，深さ0.2～0.4ｍで，北流して交差点で一条条間路の南北両側溝が合流する。合流点以北では幅が広く，また深くなっている。西側溝はともに幅1.2ｍ，深さ0.2ｍで，交差点で西へ曲がり，一条条間路の南北両側溝となる。一条条間路の交差点以東の南北両側溝は交差点以東ではともに幅0.7～1.0ｍで，深さは数cmしかないが交差点以西溝ではそれぞれ幅1.0ｍ，深さ0.3ｍと幅1.2ｍ，深

さ0.2mある。交差点以東では一条条間路北側溝の北約6mに掘立柱東西塀があり，2間分を検出した。東二坊坊間路と一条条間路の交差点が確認されたことは，藤原京北半における条坊復原を行う上で重要な資料を得たことになる。

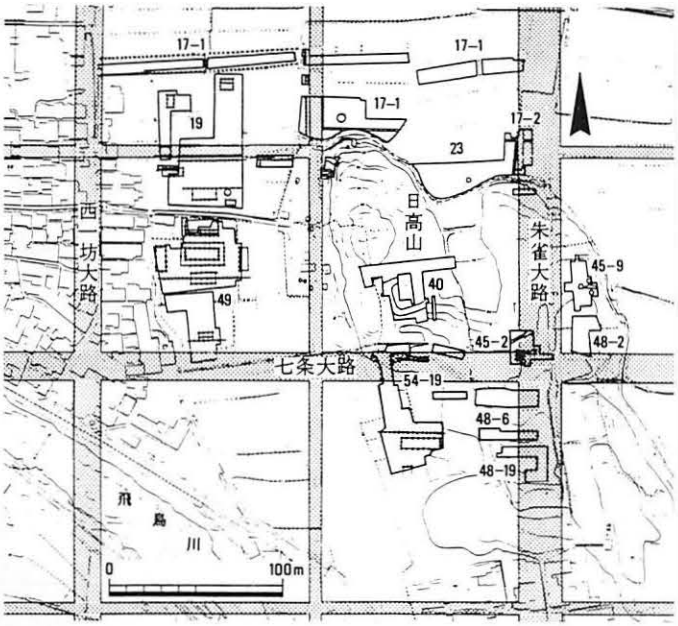
**左京六条三坊の調査（第54-1次）**　作業場新設に伴う事前調査である。調査地は橿原市木之本町で，左京六条三坊西北坪の東南部に当たる。調査地の東方，左京六条三坊東北坪の南半に当たる位置で実施した第50次調査において検出した東西大溝SD4130の西延長部の南岸を調査区の北端で確認したほかに顕著な遺構はない。SD4130からパルメット押捺文軒平瓦・山田寺系単弁八弁蓮華文軒丸瓦が出土したことは，調査地の付近に7世紀中頃の寺院が存在したことを伺わせる。

**左京九条四坊の調査（第54-25次）**　農道新設工事に伴う事前調査である。調査地は橿原市南浦町で，国指定史跡大官大寺跡の寺域の北側に当たる。調査の結果，この地域では7世紀中頃以前に広範囲にわたって大規模な整地が行われ，整地ののちに遺構が築かれていることや新たに7世紀代の南北大道が存在していたことなどが判明した。調査地一帯における大規模な整地ののち，まず斜行する南北溝が掘られ，ついで幅3m，深さ0.3mと幅6m，深さ0.2mの2条の南北溝が掘られる。この2条の南北溝の間は18mあり，両溝を東西側溝とする南北道路と考えることができる。この道路は東西両側溝から出土する土器や瓦から，藤原宮期まで存続していたことが確認できる。そのほか南北道路と同時期の溝や7世紀代から13世紀頃までの建物の柱穴と見られる多数の小穴も検出されている。

**右京二条二坊の調査（第54-23次）**　私道建設に伴う事前調査である。調査地は橿原市醍醐町で，右京二条二坊に当り，西には「長谷田土壇」がある。調査地の北側では第42次調査が行われ，西二坊坊間路東側溝に当たると見られる溝を検出している。調査の結果，二条条間路と西二坊坊間路の交差点を検出した。二条条間路は路面幅6mで，南側溝は幅1.0m，深さ0.25m，北側溝は幅1.3m，深さ0.2mである。西二坊坊間路は二条条間路と同規模で路面幅6m，交差点以東では東側溝は幅1.3m，深さ0.15m，西側溝は幅1.2m，深さ0.3m，以西ではそれぞれ幅1.2m，深さ0.2mと幅2.0m，深さ0.3mである。2条の道路の交差点の状況は，その北側では西二坊坊間路東西両側溝と二条条間路北側溝とがL字状に接続し，交差点以南では西二坊坊間道東西両側溝を二条条間路南側溝に合流させ，さらに西流させている。しかし南側溝が一部あふれ，北流して交差点を横切っている。

**右京七・八条一坊の調査（第54-19次）**　グランド造成に伴う事前調査である。調査地は橿原市上飛騨町で，藤原宮朱雀町の南にある日高山のほぼ中央西斜面からその西裾の平坦地に及ぶ，右京七条一坊・八条一坊に当たる。調査はⅠ～Ⅳ区の4調査区を設けて行い，藤原京期と中世に属する遺構を検出したが，遺構はⅣ区の南半に限られ，Ⅳ区の北半や他の調査区では後代の削平によって遺構が全て失われたものとみられる。

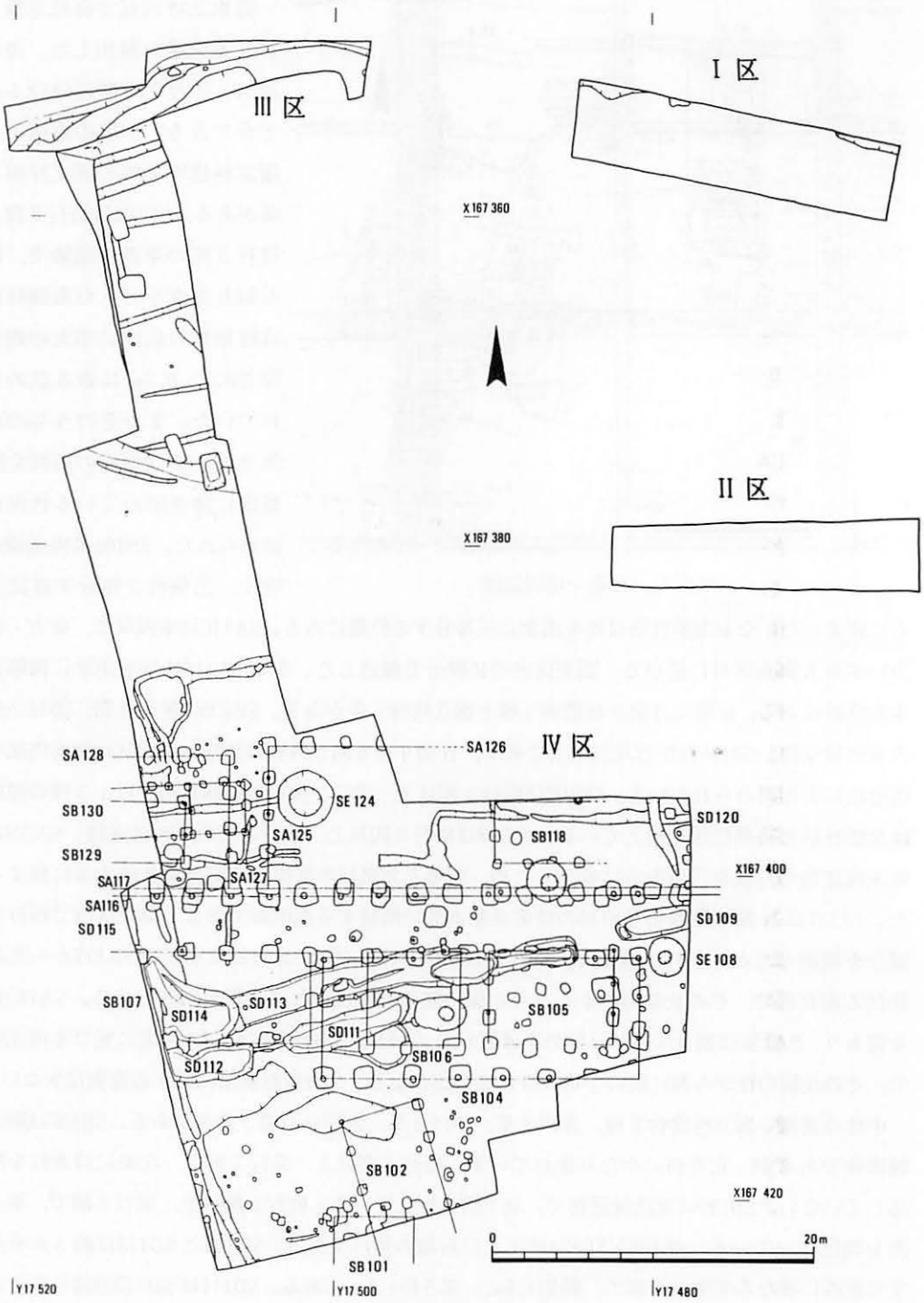
藤原京期の遺構　七条大路やその側溝は後代の削平のために既に失われていたが，右京八条




右京七・八条一坊周辺図

一坊東北坪内部で藤原京期に属する遺構を検出した。遺構はA・Bの2時期に分けることができる。A期の遺構には掘立柱建物2棟と掘立柱塀1条がある。SB104は桁行7間，梁行3間の東西棟建物で，断ち割り調査を行った南側柱には柱掘形の底面に拳大の礫が厚さ0.1～0.3mに敷き詰められていた。またそのうちの東第2柱穴では掘形の内部を版築状に突き固めている状況が認められた。SB101は南北棟建物で，北側柱2間分を確認するに留まった。なお南側柱筋は坪を南北に三等分する位置にある。SA116は東西塀で，東方・西方いずれも調査区外に延びる。調査区内で15間分を確認した。なおSA116は坪を南北に四等分する位置にある。B期には掘立柱建物5棟と掘立柱塀5条がある。SB105は桁行3間，梁行2間の東西棟建物。SB106は桁行梁行とも2間で，柱間寸法も同じ方形の建物。東妻柱は掘形内部を版築状に突き固められている。SB107は桁行4間以上，梁行2間の東西棟建物。以上3棟の建物は北側柱筋と南側柱筋を揃えている。SB118は桁行3間以上，梁行2間の東西棟建物。SB129は東西棟建物で，調査区外西方に延びるため，東妻と北側柱の東端の1間分を確認するに留まった。SA117はA期の東西塀SA116の位置を基本的に踏襲する東西塀である。調査区内で桁行15間分を検出したが，さらに調査区外東方および西方に延びる。SA125は東西塀SA117から北に延びる南北塀で，その北端の柱からさらに東に鍵の手状に折れ東西塀SA126となる。SA125は4間あり，SA126は調査区内で3間分を確認した。SA127も東西塀SA117から北に延びる南北塀で，その北端の柱から西に鍵の手状に折れSA128となる。なお藤原京期に属する遺物は少ない。

中世の遺構　掘立柱建物2棟，井戸2基，井戸2基，素掘りの溝5条等がある。SB102は南北棟建物であるが，北で西にかなり振れている。桁行3間以上，梁行1間で，北妻には妻柱を検出していない。SB130は東西棟建物で，北で西に振れている。桁行5間以上，梁行2間で，東3間を間仕切っている。SE108・SE124はともに石組の井戸である。SD109とSD113は約3mを隔てて東西に連なる素掘りの溝で，幅約4.4m，深さ約1.1mである。SD111はSD113の南に新たに掘り直された素掘りの東西溝で，規模はSD109とほぼ同じである。これらの溝の西に接続してSD112・SD114が南北に連なる。以上の5条の素掘りの溝はいずれも本来濠状に水をたたえてい




第54－19次調査遺構配置図

たものと思われ，環濠のような施設であったとみられる。

以上のように，七条大路を検出することはできなかったが，右京八条一坊東北坪内部で，藤原京期に2時期にわたる建物群が造営され，一定の計画に従って配置されていたことが明かとなったことは，藤原京内における土地利用の実態についての貴重な資料を得たことになる。

**右京十一・十二条四坊の調査（第54次）**　病院建設に伴う事前調査である。調査地は橿原市石川町で，右京十一条四坊西南坪と十二条四坊西北坪に跨がる位置にある。十一条大路をはじめ藤原京に関連する遺構の存在が予想されたが，条坊に関わる遺構は検出できず，十一条大路の存否は確定できなかった。遺構としては奈良時代以前に属すると考えられる掘立柱建物1棟・掘立柱塀2条・土坑・溝等がある。

3．藤原京内寺院の調査

**紀寺跡の調査（1987―1次）**　紀寺跡は，明日香村小山に所在し，平城京外京に存在する紀寺の前身寺院と考えられている。1973年以降の県営明日香緑地運動公園建設に伴う調査によって，藤原京左京八条二坊全域が寺域であると推定されるに至った。今回の調査は，水田改良工事のための事前調査として行われたもので，寺域内の東南部に当たる。検出した主な遺構は，藤原京の造営に伴って行われた寺域内外の整備に関連したと考えられる大小16基の土坑と小穴・小溝等である。16基の土坑は全て一体のものであると考えられるが，そのうち同規模で東西に長い大型の土坑であるSK01・06・09・11の4基は，東端を揃えるように4～6 mの間隔で南北に並び，大型土坑の周囲に小型の土坑が規則的に配置されている状況からすると，大型土坑1基と数基の小型土坑とで一つのグループを形成していたと考えられる。またこれら大小の土坑は長辺の壁が垂直に近く，短辺の壁が緩やかな船底形を呈し，底の中央が一段丸くくぼんでいる点で相似した形態を採り，その埋土の状況や出土遺物の種類にも共通点が認められる。SK10も大型の土坑であるが，上半は不整円形，下半は東西方向の長方形を呈し，大量の漆容器の壺を出土した点で他の土坑とは異なる。またSK12は柱掘形に似た方形の土坑であり，火を受けた石等を出土した。これらの土坑からは鋳銅関係の遺物や漆容器（SK10出土）・木簡（SK01等出土）が出土した。鋳銅関係遺物には，炉床・フイゴ羽口・坩堝等の鋳込み用具や湯口・バリ屑等仕上げ段階の廃材があるが，製品はない。SK10出土の漆容器には多様な器種の須恵器や土師器が用いられ，そのうちの壺類には中の漆を掻き出すために行った痕跡が見られ，また木や藁を芯として布をかぶせた栓や漆箆が伴出することから，漆工房での操業終了時に残った漆を集め，不用物を投棄したものと考えられる。SK10からはまた金箔も少量ながら出土している。以上のような遺構や遺物の様相からみて，16基の土坑は紀寺の造営に関わって掘られ，その終了時に不用となった資材と道具類を投棄したものと考えられ，鋳銅・漆・箔を用いた作業を行っていた工房の廃棄に伴う土坑群と推定される。なお伴出した土器から土坑群の時期は藤原宮期までと見られる。

（橋本義則）

1987年度　飛鳥藤原宮跡発掘調査部調査一覧

| 調査地区 | 遺跡・調査次数 | 調査期間 | 面積 | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 5BIS －N | 藤原京　第54次 | 87. 4.14～87. 6.17 | 980㎡ | 右京十一条四坊西南坪・十二条四坊西北坪・十一条大路 |
| 6AJF －B | 藤原宮　第55次 | 87. 5.11～87.12.14 | 2,150㎡ | 宮東方官衙・内裏東外郭 |
| 6AJN －P | 藤原京　第56次 | 87. 5.19～87. 6.25 | 810㎡ | 左京一条二坊・一条条間路・東二坊坊間路 |
| 6AJH －P | 藤原宮　第57次 | 87.10. 5～87.12. 3 | 1,220㎡ | 宮西南隅・（四分遺跡） |
| 6AJC －L | 藤原京　第54－1次 | 87. 4. 8～87. 4.10 | 38㎡ | 左京六条三坊西北坪 |
| 5BIS －R | 藤原京　第54－2次 | 87. 4.19～87. 4.20 | 80㎡ | 右京十一条四坊西南坪 |
| 6AWH－U | 藤原京　第54－3次 | 87. 5.13～87. 5.16 | 10㎡ | 右京八条一坊東南坪 |
| 6AJM －A | 藤原宮　第54－4次 | 87. 6.22～87. 6.26 | 78㎡ | 宮西南隅・（四分遺跡） |
| 6AMF －H | 藤原京　第54－5次 | 87. 7.13～87. 7.15 | 34㎡ | 左京八条三坊東北坪・東三坊坊間路 |
| 6AJP －T | 藤原京　第54－6次 | 87. 7.22～87. 7.25 | 72㎡ | 右京二条一坊西南坪 |
| 6AMQ－N | 藤原京　第54－7次 | 87. 8. 6～87. 8. 7 | 18㎡ | 右京九条三坊西南坪・九条大路 |
| 6AMQ－U | 藤原京　第54－8次 | 87. 8. 6～87. 8.12 | 180㎡ | 右京九条四坊東南坪・九条大路 |
| 6AJG －R | 藤原宮　第54－9次 | 87. 8.26～87. 9.16 | 560㎡ | 宮西方官衙 |
| 6AJL －C | | | | |
| 6AJM －F | 藤原京　第54－10次 | 87. 9. 4～87. 9. 8 | 25㎡ | 右京七条二坊東南坪 |
| 6AJJ －A | 藤原京　第54－11次 | 87. 9.24～87.10.12 | 137㎡ | 右京二条二坊西南坪 |
| 6AWH－K | 藤原京　第54－12次 | 87.10.14～87.10.16 | 14㎡ | 左京八条一坊西北坪 |
| 6AJH －T | 藤原京　第54－13 次 | 87.10.14～87.10.30 | 192㎡ | 右京七条二坊東北坪 |
| 6AJD －M | 藤原京　第54－14次 | 87.10.27～87.10.29 | 23㎡ | 左京七条三坊西北坪 |
| 6AJH －P | 藤原宮　第54－15次 | 87.11.12～87.11.19 | 19㎡ | 宮西南隅・(四分遺跡) |
| 6AJM －A | 藤原宮　第54－16次 | 87.11.24～87.11.27 | 107㎡ | 宮西南隅・(四分遺跡) |
| 6AJN －J | 藤原京　第54－17次 | 87.11.24～87.12.10 | 430㎡ | 左京一条三坊西南坪・東三坊坊間路 |
| 6AMQ－D･C | 藤原京　第54－18次 | 87.11.30～87.12.11 | 260㎡ | 右京九条三坊東南坪・西二坊大路 |
| 6AWH－K | 藤原京　第54－19次 | 87.12. 3～88. 3. 4 | 1,560㎡ | 右京七条一坊東南坪・八条一坊東北坪・七条大路 |
| 6AJJ －B | 藤原宮　第54－20次 | 88. 1.11～88. 1.12 | 40㎡ | 宮西外濠 |
| 6AJM －D | 藤原京　第54－21次 | 88. 1.12～88. 2.10 | 425㎡ | 右京七条二坊西北坪 |
| 6AJJ －B | 藤原宮　第54－22次 | 88. 2. 1～88. 2. 9 | 170㎡ | 宮西北辺 |
| 6AJQ －E･F | 藤原京　第54－23次 | 88. 2.10～88. 4. 1 | 970㎡ | 右京二条二坊東北坪・東南坪・西地坪・西南坪・西二坊坊間路・二条条間路 |
| 6AWH－Q | 藤原京　第54－24次 | 88. 3.22～88. 3.23 | 82㎡ | 七条大路・西一坊大路 |
| 6AMA－Q | 藤原京　第54－25次 | 88. 3.28～88. 4.26 | 250㎡ | 左京九条四坊東北坪 |
| 6AMD－T | 石神遺跡　第７次 | 87. 8. 3～88. 2. 9 | 1,000㎡ | 飛鳥浄御原宮推定地 |
| 6AMD－T | 石神遺跡周辺Ａ | 88. 3.22～88. 3.24 | 22㎡ | 飛鳥浄御原宮推定地 |
| 6AKH －P | 川原寺周辺 | 87. 5.21～87. 5.26 | 20㎡ | |
| 6BKI －G | 紀寺　1987－1次 | 87. 8.17～87. 9.22 | 470㎡ | 寺域東南部 |
| 5BTN －P | 田中廃寺　1987－1次 | 87.11. 5～87.11.11 | 29㎡ | |
| 5BAS －A | 飛鳥寺　1987－1次 | 88. 2. 8～88. 2.16 | 36㎡ | 寺域東辺部 |
| 5BAS －E | 飛鳥寺　1987－2次 | 88. 2.24～88. 2.25 | 6㎡ | 寺域東辺部 |
| 5BOQ －I | 奥山久米寺　1987－1次 | 87. 4. 8～87. 7. 2 | 150㎡ | 塔 |
| 5BOQ －Q | 奥山久米寺　1987－2次 | 87. 6. 8～87. 6.12 | 15㎡ | 南面回廊推定地南方 |
| 6AMC －P | 奥山久米寺周辺 | 87.12.15～87.12.16 | 13㎡ | 上ノ井手遺跡 |